

# 御神楽岳・鞍掛沢右俣

小沼 充範

■山行年月日:2019年9月14日

■メンバー:小沼充範

御神楽岳登山口9時40分出発。もうかけ沢出合でテントを張っているパーティーを見かける。10時10分、鞍掛沢に入渓する。木々の茂る中、長いナメ床歩きを終わると釜を持つ小滝となり、その奥に最初の10m滝が現れ左側を登る。小滝を過ぎると2段10m滝となり右側を登る。9月中旬だというのに夏のような日差しでとても暑い。釜を持つ6mナメ滝を左岸から巻いて行くと河原となり正面に本名御神楽岳が見えてくる。噴水のように落水する4m滝を越えると二俣となり、左俣は15m滝を掛け、右俣は30mの大滝を掛けている、11時10分。大滝は左岸のブッシュから杉の木を目指して高巻き、うまく滝の落ち口に出ることができた。

小滝を過ぎると手強い滝の連暴帯となる。5m滝は右側からきわどい登りとなる。3m滝はブッシュを利用して左から越え、4m滝は右側を登る。4m滝を流心から越えると連暴帯は終了となる。2m滝を過ぎると美しい3段15m滝が現れ快適な登りとなる。見上げる青空は真夏の輝きはなく、どこか憂いを帯びている。3m、4m滝は滑りやすく左岸からまとめて巻いて行く。直暴12m滝は左岸の傾斜の緩い草地から巻いて行く。12時30分、2m滝を左から登ると3段15m滝が現れる。上段は左岸か

ら巻き、振り返ると鞍掛沢左岸尾根が眼下に見え、かなり高度を上げたことがわかる。



鞍掛沢3段15m滝

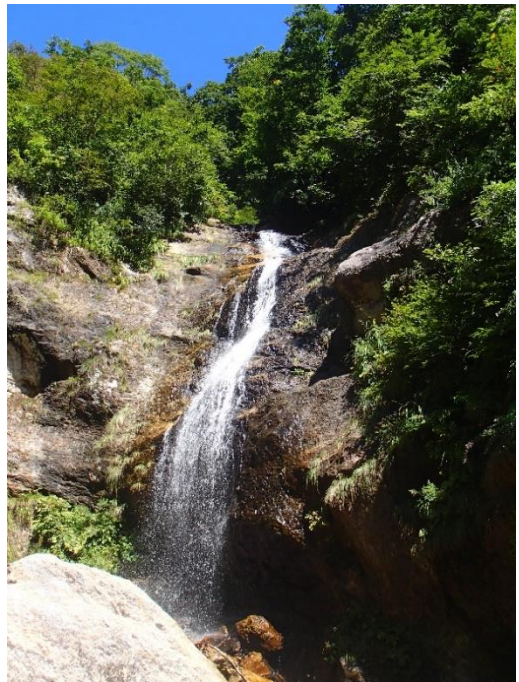
水量2対1の二俣となり、水量の多い左俣に入ると階段上4m滝、チョックストーン滝が現れる。小滝を過ぎると5m滝、6m滝となり、きわどい登りとなる。8m滝、3m滝を過ぎると、13時40分1対2の二俣となり、左俣は水枯れの沢で稜線が近いように感じられる。右俣に入ると糸状10mナメ滝となり、左側の草付きからアイスハンマーを使って登れそうだが、無理をせず左俣を少し登ってから斜面をトラバースしてから右俣に下りる。左俣では赤蝮の子供を見かける。

水流はなくなるが、沢は傾斜を増し水枯れ

のスラブ滝が次々と現れる。ホールドが乏しいので両側のブッシュを掴みながらの登りが続き、腕力が必要となる。振り返ると貉ヶ森山、日尊の倉山を見渡すことができる。岩場を越えると県境稜線である、15時着。地形図で確認すると1091mの西側、標高1100m付近にいるようだ。正面に御神楽特有の険しい岩場を見せる水晶尾根等が見え、眼下にム沢を見下ろしかつて泊まったことのある河原も見える。笠倉山の左奥には飯豊連峰が見えている。県境の踏跡をたどると本名御神楽岳の頂上である、15時40分。山頂から浅草岳、守門岳、駒形山を眺めることができた。あとは登山道を下るだけである。もうかけ沢出合いから焚火の煙が見えている。

焚火をしているパーティーに声をかけるとJAC茨城であり、今日はザイルワーク等沢登りのトレーニングを行い明日はもうかけ沢を遡行するそうだ。御神楽岳登山口18時15分着。車で林道を進んで行くと金丸沢出合付近で暗闇の中に獣2頭が目を光らせており、一頭は左手の草むらへ、もう一頭は右手にある木の枝へ登って行く。よく見るとその獣はツキノワグマであった。

数年前、林さんと鞍掛沢右俣を遡行したときは楽しい沢というイメージであったが、今回は単独ということもあって緊張感があり一人で行く沢ではないと感じた。鞍掛沢右俣は次々と滝が現れ、ほとんどの滝が登れるものばかりであり、御神楽岳入門の沢と言えるだろう。



鞍掛沢の大滝

